

Google AI Studio研修

自動化の仕組みを 少しのぞいてみる

自動化担当者予備軍のための 45分講座

本日のゴール

「担当者と会話できる」レベルを目指します。

01



仕組みを知る

Google AI Studioが
何をする場所か知る

02



選択肢を知る

モデルや設定に
選択肢があることを知る

03



会話できる

自動化担当者と
具体的に相談できる

作れるようにはなりませんが、相談できるようにはなります。

本日の流れ（全6章）

45分で、知る→選択肢を知る→相談できる、まで進みます。

01	Google AI Studioとは	普段使うGeminiとの違いを整理します
02	JOTO WARRIORSでの活用イメージ	実際の自動化の裏側を紹介します
03	モデルと設定の基礎知識	選び方の考え方を知ります
04	APIキーの基礎知識	自動化を支える「鍵」の話です
05	ワーク実践	自分の業務のアイデアを考えます
06	まとめ	今日の要点を持ち帰ります

Google AI Studioって何？

Geminiを「プログラムから呼び出す」ための開発者向けツールです。



普段使うGemini

ブラウザやアプリでチャットする、おなじみのAI。誰でもすぐに使えます。



Google AI Studio

そのGeminiの機能を、GASなどのプログラムから自動で呼び出せるようにする「開発者向け」の場所です。

「チャットするGemini」の裏で、自動化を支えているのがGoogle AI Studioです。

通常業務では、実は不要です

画面上でチャットするだけなら、一切関係ありません。



Geminiでチャットするだけなら

Gemini（チャット）やGemini for Workspaceを使うだけなら、Google AI Studioの登録・操作は一切不要です。



必要になるのは自動化を「作る」時だけ

GASなどのプログラムから自動でAIを呼び出す仕組みを作る時にだけ、発行・管理の担当者が使います。

ほとんどの方には直接関係ありません。安心して次に進んでください。

活用イメージ：お問い合わせ対応の自動化

フォーム送信からメール下書きまでを自動でつなぎます。

1



フォーム送信

お問い合わせフォーム
が送信される

2



自動通知

担当者へ
自動通知メール

3



下書き作成

返信メールの下書きを
自動作成しGmailに
保存

4



確認して送信

担当者は内容を確認
して送信するだけ

この「下書き作成」の部分に、Google AI Studioで発行した仕組みが使われています。

モデルの選び方：Flash と Pro

「速さ重視」か「精度重視」かで使い分けます。



Flash系モデル：速さ・コスト重視

応答が速く、コストも抑えられます。定型的な処理や、大量に呼び出す自動化に向いています。



Pro系モデル：精度・複雑な処理重視

より複雑な指示や、長い文章の読解・分析が必要な場面で力を発揮します。処理は少し重めです。

「まずFlashで試して、精度が足りなければProを検討する」が基本の考え方です。

主なパラメータの基礎：Temperature

「毎回同じ答え」か「毎回少し違う答え」かを調整します。



低め（0に近い）

毎回ほぼ同じ、堅実で予測しやすい答えになります。集計・分類など「正確さ」重視の自動化向き。



高め（1に近い）

毎回少し違う、多様でクリエイティブな答えになります。アイデア出しや文章のバリエーション向き。

「Temperature」＝答えの振れ幅を決めるつまみ、と考えてください。

そもそも「APIキー」とは？

たとえばなら…「合言葉が書かれた鍵」です。



必要になる場面

自動化の仕組みを、Google AI Studioで発行して作るときに必要になります。発行・管理は担当者が行います。



通常業務では不要

画面上でGemini（チャット）を使うだけなら、APIキーの取得・入力は一切不要です。

APIキー＝プログラムがAIを使うための「合言葉」だと考えてください。

APIキーを扱う5つの注意点

パスワードやクレジットカード番号と同じ慎重さで扱います。

- | | | |
|----|-------------------|-----------------------------------|
| 01 | パスワードと同じように扱う | 誰にも教えない。チャット・メール・メモアプリに貼り付けない |
| 02 | プログラムに直接書き込まない | GASなら「スクリプトプロパティ」など安全な保管場所を使う |
| 03 | SNSやGitHub等には載せない | 公開の場所に貼ると第三者があなたのアカウントでAIを使い放題になる |
| 04 | 発行・管理の担当者を決める | 各自が勝手に発行せず、組織で一元管理する |
| 05 | 漏えいに気づいたら即無効化 | Google AI Studio上で速やかに無効化・再発行する |

自動化を頼みたい時は

「自分で作らなきゃ」と思わなくて大丈夫です。



「こんな自動化がほしい」でOK

こういう作業を自動化できたら、というアイデアがあれば、そのまま自動化担当者に伝えてください。



モデル・設定の相談もできる

「速さ重視でいい」「精度が大事」など、今日学んだ言葉で希望を伝えられると、話がスムーズです。

今日学んだ言葉があれば、担当者との会話がぐっとスムーズになります。

考えてみましょう（7分）

自分の業務で「自動化できたらいいな」と思う作業を1つ挙げます。



繰り返している作業を思い出す

毎週・毎月、同じような集計や連絡をしていますか？



希望条件も言葉にしてみる

「速さ重視」か「精度重視」か、自分ならどちらを求めるか考えてみましょう。

良いアイデアがあれば、そのまま自動化担当者に伝えてみてください。

今日のポイント3つ

覚えることは、実はこれだけです。

01



普段は関係ない

Geminiでチャットする
だけなら不要

02



選択肢があると知る

速さ重視のFlash、
精度重視のPro

03



APIキーは慎重に

5原則を担当者と
共有しておく

質疑応答

ご清聴ありがとうございました